

奥出雲町バイオマス産業都市構想の概要

島根県奥出雲町、人口 約1.4万人、面積 3.7万ha

構想の概要

林地残材率が約4割という課題に対し、「森林の適正伐採」と「伐採物の有効利用率の向上」の両立に向かう日本の中山間地の林業振興の見本として貢献できるまちづくりを目指す。

1. 将来像

- ①環境保全への森林の機能を高く保持
- ②地域振興に貢献
- ③森林・林業と需要を結びつける方策を提示
- ④日本の中山間地の振興の見本を提示

2. 事業化プロジェクト

- ①森林計画・作業路整備
- ②木質の収集作業
- ③集積・加工場の整備
- ④商品開拓
- ⑤森林の監視

3. 目標(10年後)

- ①木材収集:60,000t/年
- ②燃焼用チップ生産:4,500t、加熱処理品:14,000t

4. 地域波及効果

- ①林地残材の利用向上:1,700tから37,110tへ
- ②雇用の創出:136名以上
- ③産業の創出
 - ・作業路整備:40百万円/年
 - ・伐採搬出:48百万円/年
 - ・加工センター:90百万円/年
- ④温室効果ガス削減:1,200 t-CO₂/年

5. 実施体制

・奥出雲町と奥出雲森林総合活用協議会が中心となって推進するとともに、進捗状況を外部評価委員会が点検・評価

6. その他

- ・奥出雲町総合計画(H23)
- ・奥出雲町バイオマスタウン構想(H23)

奥出雲町バイオマス産業都市構想の概要

島根県仁多郡奥出雲町、人口 14,456人、面積3.7万 ha

構想の概要

木質バイオマスを、需要先（量的には製鉄会社用を軸とする）で使いやすく、かつ経済的輸送可能距離を延ばせる加熱処理を行なうことによって、地域の84%を占める森林の適正伐採による効果（水土・環境の保全）と、伐採物の100%利用の両立を可能にする。

A. バイオマス利用の現状と課題

- ① 木質バイオマス以外；バイオマスタウン構想での「堆肥化→農業利用」を中心に進める。
- ② 木質バイオマス；狭義の「林地残材」であれば地域内利用できるが、「森林保全の適正伐採」を目指す、地域内利用だけでは対応できない。

B. バイオマス産業都市を目指す背景と理由

- ① 現在の日本の森林は、歴史的、世界的に見ても、「植林したものの手入れ不足、伐採不足による森林の荒廃の進行」という極めて特異な状況にある。
- ② 日本の木質バイオマス発電や、木質バイオマスの利用を考える重工業などで、原料は「半径30～50km圏内から集荷が必要」ということが制約になっている場合がある。
→木質の搬送可能距離の壁を突破することが、木質の有効利用度を高めるために望ましい。

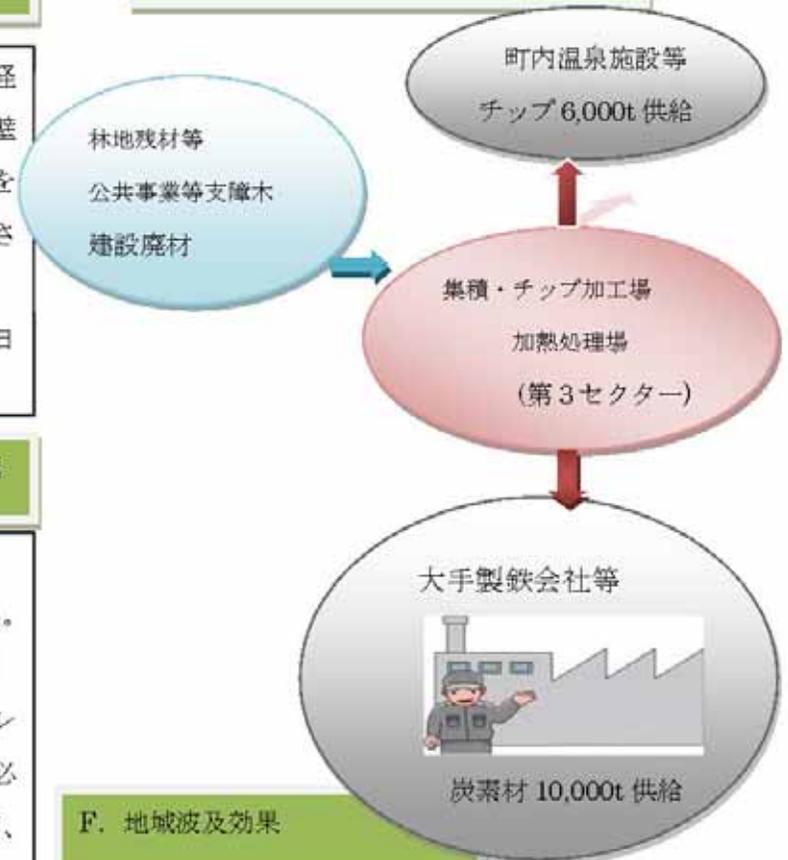
C. バイオマス産業都市として目指す将来像

・森林の適正伐採を行うことと、「従来の経済的輸送可能距離；半径30～50kmの壁を突破できる」処理（強乾燥～炭化の間）を行うことによる伐採物の100%利用を両立させる。
これによって奥出雲町の林業の再生と、日本の中山間振興の切り口を示す。

D. バイオマス産業都市として達成すべき目標

- ① 森林、林業については、中長期視点から「適正伐採」と「コスト低減」に向けて進める。
- ② エネルギー用などの木質の需要は、時期によって変動することが予測されるので、フレキシブルに対応できるようにする。（→加熱（必要により成形）により、製鉄業をはじめとして、多くの需要先の要望に応えられるようにする。）

E. 事業化プロジェクトの内容



F. 地域波及効果

- ・産業創出； 1780百万円/10年
- ・雇用創出； 136名
- ・城内使用チップのコストダウン